

国際交流基金賞

国際交流基金では、1973年以來毎年、学術、芸術、その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に特に顕著な貢献があり、引き続き活躍が期待される個人、団体に「国際交流基金賞」を授賞し、国際文化交流の発展を奨励しています。本年は東日本大震災が発生したことから、本賞授賞式において受賞者らによるシンポジウム「日本的風土の再構築」を開催しました。

2011年度 受賞者

文化芸術交流部門

撮影：新井卓



タンブッコパーカッションアンサンブル
TAMBUCO Percussion Ensemble

メキシコ

大太鼓や締太鼓など日本の楽器を多用し、メキシコのみならず世界各国において質の高い日本の現代音楽および日本人作曲家による作品を披露している。また、箏、尺八、マリンバ、バイオリンなどの著名な日本人演奏家とのコラボレーションも積極的に行い、日本文化の理解および促進に大きな役割を果たしている。

受賞記念コンサート
2011年10月7日、トッパンホールにて
協力：トッパンホール

日本語部門

撮影：相川健一



カイロ大学文学部日本語日文学科

エジプト

中東・アフリカ地域で最初に発足した日本語・日本研究分野の重要拠点として、長年にわたり日本語・日本文化研究者の育成および日本語の普及を行っている。文学から政治に至るまで、同学科の卒業生により数多くの日本関連書籍・翻訳書が出版され、アラビア語圏における円滑かつ効果的な日本文化理解に大きく貢献している。

カラム・ハリール学科長による受賞記念講演会
「エジプトの日本語教育とカイロ大学の歩み」
2011年10月13日、国際交流基金日本語国際センターにて

日本研究・知的交流部門



オギュスタン・ベルク
Augustin Berque

フランス/国立社会科学高等研究院退任教授

日本各地の文化や風土に造詣が深く、独自の風土論を確立したフランスの著名な日本研究者。和辻哲郎『風土』に出会ったことを契機に、単なる自然環境ではない「風土」に関する画期的な研究が続けられている。地理学、哲学、人類学、そして日本研究の分野において多大な貢献をしてきた。

受賞記念講演会
「日本風土の教え：蝦夷論から進化論へ」
2011年10月12日、国際交流基金 JFICホール「さくら」にて

地球市民賞

地球市民賞は、豊かで活力のある社会を築くうえで、多くの人々が国際文化交流のモデルとして参考になる活動を、主体的発意で行っている市民団体を顕彰するもので、1985年より毎年贈呈しています。2011年度は、国際文化交流を通じた東日本大震災復興支援を行っている国際交流団体に対し「理事長特別賞」を贈呈しました。(P.7に関連情報)

2011年度 受賞者

かものはしプロジェクト 東京都渋谷区



カンボジアの児童教育や技術研修、人身売買阻止のための現地警察研修、コミュニティ・ビジネスによる自立支援などの活動を実践。活動資金を賄うためにIT事業の受託で起業した点もアントレプレナー・モデルとして評価されている。

ブラジル友の会 岐阜県美濃加茂市



日本在住のブラジル人が直面する各種の困難や課題解決のための自助組織として設立された。日本での生活にまつわる相談や情報提供、地域の人材育成、就労支援、起業家支援なども積極的に展開し、美濃加茂市から定住外国人支援センターの運営を受託するまでに発展した。

鳥の劇場 鳥取県鳥取市



演劇がもつ力や、地域社会における演劇上演、劇場の新しい可能性を引き出すべく、国際共同制作を含めた現代劇の創作・上演、ワークショップやレクチャーなどを実施。また、演劇に限定しない多様な芸術活動で地域のアート・センターとしての役割も果たす。